

(10) 四 国



四国地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

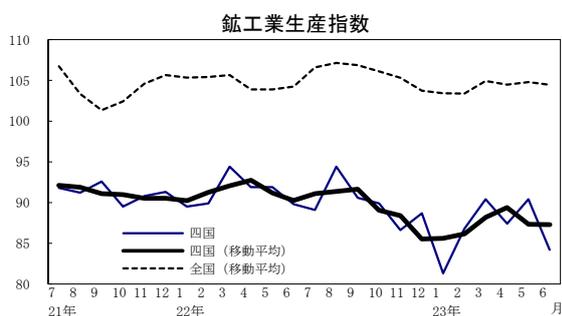
前回からの主要変更点

	前回 (令和5年5月)	今回 (令和5年9月)	
景況判断	緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	↓
鉱工業生産	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きに足踏みがみられる	↓
雇用情勢	持ち直している	改善の動きがみられる	↑

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

4－6月期の鉱工業生産は、前期比1.3%増となった。月別にみると、4月は化学・石油石炭製品が減少したこと等により前月比3.3%減、5月は汎用・生産用機械が増加したこと等により同3.4%増、6月は化学・石油石炭製品が減少したこと等により同6.9%減となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1－3 月期	4－6 月期	4月	5月	6月
化学・石油石炭	22.1	▲3.6	0.9	▲21.2	16.1	▲17.3
食料品	13.8	▲3.5	0.1	▲1.4	▲0.1	▲2.0
電気機械	12.8	2.7	0.1	18.1	▲12.9	1.0
汎用・生産用機械	11.3	▲8.5	7.6	0.9	18.3	▲14.4
輸送機械	7.9	10.0	5.5	▲3.7	5.2	▲7.8
鉱工業	100.0	▲2.5	1.3	▲3.3	3.4	▲6.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4－6月期、6月は速報値。

- (備考) 1. 2015年=100 (全国は2020年=100)、季節調整値。
四国の最新月は速報値。
2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数（RDEI（消費））

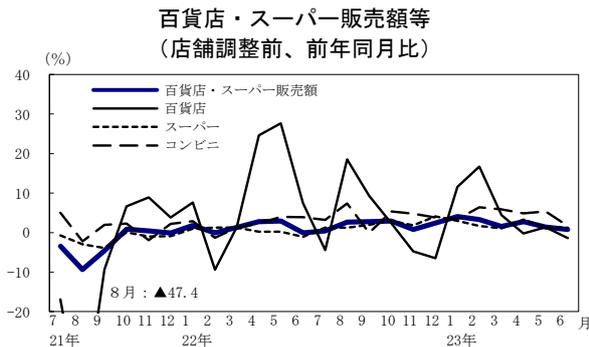
4－6月期は前期比1.5%減となった。月別にみると、4月は前月比1.1%減、5月は同0.5%減、6月は同0.1%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4－6月期は前年同期比1.7%増となった。月別にみると、4月は前年同月比2.8%増、5月は同1.4%増、6月は同0.8%増となった。

百貨店は、4－6月期は前年同期比0.1%減となった。

スーパーは、4－6月期は同2.0%増となった。

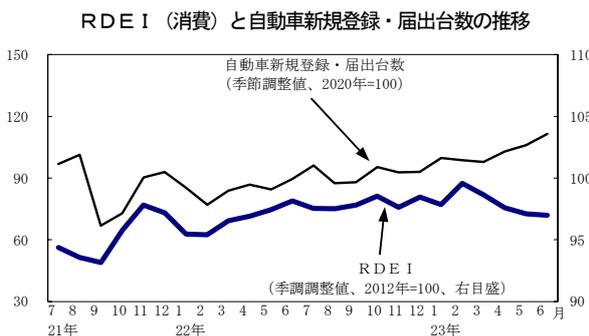


	2023年4-6月	2023年4月	5月	6月
RDEI（消費*1）	▲1.5	▲1.1	▲0.5	▲0.1
百貨店・スーパー(*2)	1.7	2.8	1.4	0.8
百貨店(*2)	▲0.1	▲0.2	1.4	▲1.4
スーパー(*2)	2.0	3.3	1.4	1.2
コンビニ(*2)	4.0	4.9	5.3	1.7
乗用車(*3)	22.6	18.2	26.0	24.2
(季節調整値)(*3)	8.1	5.2	2.9	5.2

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

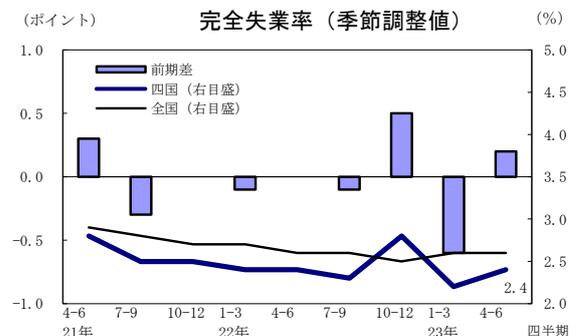
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率は低下しているものの、前回の景気循環の平均的な水準にある（P10 参照）。一般労働者の定期給与は上昇している（P10 参照）。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

